

日本語とモンゴル語の補助動詞の対照研究

—「～ている」と「-CVB bayi-」を中心に—

巴 徳 瑪

日语和蒙古语的补助动词比较研究

—‘～ている’和‘-CVB bayi-’为中心—

巴德玛 (BADEMA)

長崎外大論叢

第20号
(別冊)

長崎外国語大学
2016年12月

【研究ノート】

日本語とモンゴル語の補助動詞の対照研究

—「～ている」と「-CVB bayi-」を中心に—

巴 徳 瑪

日语和蒙古语的补助动词比较研究

—‘～ている’和‘-CVB bayi-’为中心—

巴德玛 (BADEMA)

本論文对日语的补助动词‘～ている’和蒙古语的补助动词‘-CVB bayi-’的语法意义和语法功能进行了比较研究。

日语的补助动词‘～ている’和‘-ju bayi-’在表示‘动作的继续’‘结果的持续’‘一般状态’‘反复’时有相同点。在表示‘经历’时有不同点。补助动词‘～ている’和‘-γad bayi-’在表示‘结果的持续’‘反复’时有共同点，同时在表示‘动作的继续’‘一般状态’‘反复’时有相异点。日语的补助动词‘～ている’表示基本意义时，蒙古语的补助动词‘-CVB bayi-’根据前接动词的类型而表示不同意义。前接动词表示主题动作・客体变化或表示主体意志的动作动词，有过程的主体变化动词时，‘-ju bayi-’和‘-γad bayi-’表示‘动作的继续’‘结果的持续’。然而，前接动词表示非意志性动作，心理活动的动词时，‘-ju bayi-’表示‘动作的继续’，然而‘-γad bayi-’不能使用。前接表示状态的动词时，‘-ju bayi-’表示‘一般状态’，而‘-γad bayi-’不能使用。另外，在表示‘反复’和‘经历’等派生意义时‘-ju bayi-’和‘-γad bayi-’有着共同点。

キーワード：日本語 モンゴル語 補助動詞

1. はじめに

日本語とモンゴル語^①はSOV言語であり、「主語＋目的語＋述語」といった基本的語順は類似している。そして、動詞述語「V+v」の形において、「v」は動詞の実質的な意味を失い、「V」動詞について様々な文法的な意味を加える。この場合、「v」は補助動詞と称されている。

日本語の補助動詞「～ている」は日本語のアスペクトを表す重要な動詞であり、これまで数多くの優れた研究成果が出されている。一方、モンゴル語の補助動詞「-CVB bayi-」はモンゴル語のアスペクトを表す重要な補助動詞の一つである。この二つの補助動詞の意味・用法において、異同点は存在しているが、その詳しい対照研究はまだ進んでいないようである。補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」の対照研究はモンゴル語母語話者の日本語学習上での困難な点を解決できるだけでなく、モンゴル語のアスペクトの研究、動詞及び補助動詞を新たに分類するのに重要な役割を果たすだろう。

そこで、本論では、日本語とモンゴル語のアスペクトを表す主な補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」を対照し、その類似点と相違点を考察していきたい。研究方法として、本論では、日本語の補助動詞「～ている」が表すアスペクトの意味—「動作の継続」、「結果の持続」、「経歴」、「反復」、「単なる状態」の五つの側面からモンゴル語の補助動詞「-CVB bayi-」と対照を行い、その異同点を

究明していきたい。

2. 補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」との対照

日本語の補助動詞「～ている」の意味・用法については、これまで一定の研究蓄積が存在している。金田一(1955)をはじめ、鈴木(1958)、吉川(1971)、奥田(1977)(1978)、仁田(1987)、益岡(2000)、日本語記述文法研究会(2007)等、高く評価すべき研究が続々と出されている。巴徳瑪(2012)では、補助動詞「～ている」の意味・用法についてこれまでの先行研究を網羅している。本論では、紙幅の都合のため、巴徳瑪(2012)でまとめた結果—「動作の継続」、「結果の持続」、「経歴」、「反復」、「単なる状態」—を引用してモンゴル語の補助動詞「-CVB bayi-」と対照する。

一方、モンゴル語の補助動詞「-CVB bayi-」の意味・用法については、内蒙古大学中国語学文系蒙語教研室(編)(1964)、清格爾泰(1979)、松岡(2008)、塩谷・プレブジャブ(2001)、小沢(1987)などの先行研究があげられる。巴徳瑪(2012)では、その先行研究を詳しく考察しており、そちらを参照されたい。それにおいては、モンゴル語の補助動詞と前接動詞との接続パターンについて、主に結合型「-ju bayi-」、分離型「-γad bayi-」^②を中心に、補助動詞「-CVB bayi-」の意味・用法を論述している^③。本論でも、また結合型「-ju bayi-」、分離型「-γad bayi-」を中心に対照を展開していきたい。

日本語とモンゴル語の補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」との対照結果を先に表で提示すると次の表のようになる。

表 補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」

意味		動詞のタイプ		補助動詞		～ている		-CVB bayi-	
								-ju bayi-	
基本的な意味	動作動詞	主体動作・客体変化		動作の継続					
		主体動作	意志的な動き	動作の継続					
			非意志的動き	動作の継続				(完了)	
		主体変化	瞬間的な変化	結果の持続			結果の持続		
			過程を持つ変化	結果の持続	動作の継続				
			再帰動詞	動作の継続／結果の持続					
		心理動詞		動作の継続					
		状態動詞		単なる状態					
派生的な意味				経歴					
				反復					

2.1 動作の継続を表す場合

前接動詞が「主体動作・客体変化」、又は「主体動作」を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」は「動作の継続」を表す。他方、モンゴル語においては、補助動詞「-CVB bayi-」は「-ju bayi-」が動作の継続を表すのに対し、「-γad bayi-」は不自然である。

(1) お母さんが料理を温めている。

ejī qoyula qalayul=ju/?γad bayi=n_a
母 料理 温める-CVB いる-PRES

(2) 彼が部屋を片付けている。

tere ger-iyen čeberle=jü/?ged bayi=n_a
 彼 家-REFL 片づける-CVB いる-PRES

(3) 子供が床を拭いている

keüked šala-yi jülgü=jü/?ged bayi=n_a
 子供 床-ACC 拭く-CVB いる-PRES

(4) 彼は紙を燃やしている。

tere čayasu sitaya=ju/?γad bayi=n_a
 彼 紙 燃やす-CVB いる-PRES

以上四つの例文において、補助動詞「～ている」は動作の継続を表している。例文(1)(2)において、補助動詞「～ている」の前接動詞は「主体動作・客体変化」を表す動詞であり、例文(3)(4)において、補助動詞「～ている」の前接動詞は「主体動作」を表す動詞である。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」は前接動詞と結合型「-ju bayi-」で結合し、動作の継続を表す。例文(3)(4)において、補助動詞「～ている」の前接動詞「拭く」「燃やす」は主体動作によって客体に変化が発生しているものの、主体の動作・行為が焦点化されている動詞である。一方、「食べる、走る、歩く、見る、…」等の動詞も主体動作を表す動詞であるものの、「拭く、燃やす」等と違って、主体の行為の結果状態がかなり読み取りにくい動詞である。この場合、補助動詞「～ている」は無論動作の継続を表し、補助動詞「-CVB bayi-」の結合型「-ju bayi-」と相互に対応するが、分離型「-γad bayi-」は不自然である。

(5) 子供がご飯を食べている。

keüked qoγula-ban ide=jü/?ged bayi=n_a
 子供 ご飯-REFL 食べる-CVB いる-PRES

(6) 彼が本を読んでいる。

tere nom ungsi=ju/?γad bayi=n_a
 彼 本 読む-CVB いる-PRES

そして、前接動詞が主体動作であるが、「流れる、降る、沸く、…」等、非意志的な動き、現象を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」と結合型「-ju bayi-」は動作の継続を表す。しかし、分離型「-γad bayi-」は動きや変化が終わったこと、つまりパーフェクトを表す。

(7) 水が沸いている。

- (a) usu bučala=ju bayi=n_a
 水 沸く-CVB いる-PRES
- (b) usu bučala=γad bayi=n_a
 水 沸く-CVB いる-PRES (水が沸いた。)

(8) 雨が降っている。

- (a) boruyan oru=jū bayi=n_a
 雨 降る-CVB いる-PRES
- (b) boruyan oru=γad bayi=n_a
 雨 降る-CVB いる-PRES (雨が降った。)

また、前接動詞が心理的な動きを表す心理動詞の場合、補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」は相互に対応し、「動作の継続」を表す。ただし、補助動詞「-CVB bayi-」は結合型「-jū bayi-」の場合は自然であるが、分離型「-γad bayi-」の場合はやや不自然である。

(9) ここで何を書くのかについて考えている。

ende yayu biči=kū tuqai bodulkila=jū/?γad bayi=n_a
 ここ 何 書く-PRTC (について) 考える-CVB いる-PRES

(10) 彼がきっと来ると信じていた。

tere labtai ire=n_e gejū itegeje=jū/?ged bayi=jai
 彼 きっと 来る-FUT ～と 信じる-CVB いる-PAST

心理動詞は終結点が存在しないものの、開始点は存在する動作性がかなり弱い動作動詞である。そのため、後接する補助動詞「～ている」はその心理的動きが終結点へ進行しつつあること、つまり動作の継続を表す。この場合、「-jū bayi-」は動作の継続を表しているため自然であるが、「-γad bayi-」は心理的な動きが終わった結果状態が持続していることを表すようになるため、不自然である。

以上、補助動詞「～ている」が動作の継続を表す場合、補助動詞「-CVB bayi-」とは相互に対応するように対応するのかを考察した。前接動詞が「主体動作・客体変化」、又は「主体動作」動詞の場合、補助動詞「～ている」と補助動詞「-CVB bayi-」の結合型「-jū bayi-」は相互に対応し、動作の継続を表すが、補助動詞「-CVB bayi-」の分離型「-γad bayi-」は不自然である。ただし、前接動詞が非意志的な動き、現象を表す動詞の場合、分離型「-γad bayi-」はパーフェクトを表す。また、前接動詞が心理動詞の場合、補助動詞「～ている」と補助動詞「-CVB bayi-」の結合型「-jū bayi-」は相互に対応し、動作の継続を表すが、分離型「-γad bayi-」は不適切である。

2.2 結果の持続を表す場合

前接動詞が主体変化を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」はある状態から他の状態へと変化した結果の持続を表す。一方、補助動詞「-CVB bayi-」は分離型「-γad bayi-」の方が自然であり、結合型「-jū bayi-」の場合はやや不自然である。

(11) 服が水に濡れている。

debel usun-du noru=?jū/γad bayi=n_a
 服 水-DAT 濡れる-CVB いる-PRES

(12) 木の枝が折れている。

modu-n salay_a quyura=?jū/γad bayi=n_a

木-GEN 枝 折れる-CVB いる-PRES

(13) そこに犬が死んでいる。

tende noqai ükü=?jü/ged bayi=n_a
そこ 犬 死ぬ-CVB いる-PRES

例文 (11) は服が水に濡れた結果状態が持続していることを表し、例文 (12) は枝が折れた結果が持続していることを表している。また、例文 (13) は犬が死んだ結果状態が持続していることを表している。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」は分離型「-γad bayi-」の方が自然であるが、結合型「-ju bayi-」は不自然である^④。

例文 (11) ～ (13) の「濡れる、折れる、死ぬ」は主体の瞬間的な変化を表す動詞であり、補助動詞「～ている」と分離型「-γad bayi-」は相互に対応し、結果の持続を表す。そして、「枯れる、凍る、冷める、増える、腐る、…」等、主体の変化の過程を持つ動詞の場合でも、補助動詞「～ている」は通常、結果の持続を表す。しかし、モンゴル語の補助動詞「-CVB bayi-」において、結合型「-ju bayi-」は変化の進行を表すが、分離型「-γad bayi-」は変化の結果の持続を表す。

(14) 秋になり、草花が枯れている。

- (a) namur bol=ju ebesü çečeg qubaqayira=ju bayi=n_a ——変化の継続
秋 なる-CVB 草 花 枯れる-CVB いる-PRES
- (b) namur bol=ju ebesü çečeg qubaqayira=γad bayi=n_a ——結果の持続
秋 なる-CVB 草 花 枯れる-CVB いる-PRES

(15) 足の傷が治っている。

- (a) kül-ün sirq_a idegere=jü bayi=n_a ——変化の継続
足-GEN 傷 治る-CVB いる-PRES
- (b) kül-ün sirq_a idegere=ged bayi=n_a ——結果の持続
足-GEN 傷 治る-CVB いる-PRES

例文 (14a) は草花が枯れつつあることを表しているのに対し、例文 (14b) は完全に枯れた状態にあることを表している。同じく、例文 (15a) は傷が治りつつあることを表しているのに対し、例文 (15b) は傷が治った結果の状態を表している。

また、次の例文のように、変化の過程を表す成分と共起した場合、補助動詞「～ている」は変化の進展を表す。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」においては、結合型「-ju bayi-」は継続を表すが、分離型「-γad bayi-」は不自然な文になる。

(16) お湯が徐々に冷めている。

qalayun usu alyur-iyar kür=čü/?ged bayi=n_a
お湯 徐々に-INST 冷める-CVB いる-PRES

さらに、前接動詞が主体変化を表す動詞の中で、特に主体の動作によって主体に変化をもたらす再

帰的な意味を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」は結果の持続を表す。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」において、「-ju bayi-」と「-γad bayi-」は同じく結果の持続を表す。

(17) バトは椅子に座っている。

batu	sandali	deger_e	sayu=jū/γad	bayi=n_a
バト	椅子	上	座る-CVB	いる-PRES

(18) お母さんが子供を抱いていた。

eji-ni	keüked-i	teberi=jü/ged	bayi=l_a
母-3 POSS	子供-ACC	抱く-CVB	いる-PAST

ただし、時間を表す副詞、又は動作の様態を表す副詞と共に起した場合、補助動詞「～ている」は「動作の継続」を表すようになる。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」においては、結合型「-ju bayi-」は「動作の継続」を表すが、分離型「-γad bayi-」は不自然であり、結果の持続を表せない。

(17 a) バトは椅子に二時間座っている。

batu	sandali	deger_e	goyar čay	sayu=jū/?γad	bayi=n_a
バト	椅子	上	二時間	座る-CVB	いる-PRES

(18 a) お母さんが子供をしばらく抱いていた。

eji-ni	keüked-i	udatal_a	teberi=jü/?ged	bayi=l_a
母-3 POSS	子供-ACC	しばらく	抱く-CVB	いる-PAST

また、前接動詞が主体の変化、且つ再帰的な意味を表す動詞の中で、変化の過程を持つ動詞「着る、履く、脱ぐ、…」等の場合、補助動詞「～ている」には動作の継続と結果の持続との両方の意味が含まれ、共起する成分によって、どちらかの意味が前面化される。

(19) ナランは民族衣装を着ている。

naran	ündüsüiten-ü qobčasū-ban	emüs=čü/ged	bayi=n_a
ナラン	民族衣装-REFL	着る-CVB	いる-PRES

例文 (19) において、補助動詞「～ている」は動作の継続と結果の持続との両方の意味を表していると考えられる。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」において、分離型「-γad bayi-」は無論、結果の持続を表す。これに対して、結合型「-ju bayi-」には、動作の継続と結果の持続との両方の意味が含まれている。

だが、次の例文 (19a) のように、動作の様態（又は時間）を表す副詞と共に起した場合、補助動詞「～ている」は動作の継続の意味が焦点化される。これと同じく、補助動詞「-CVB bayi-」においては結合型「-ju bayi-」が表す動作の継続の意味が焦点化される。

(19 a) ナランはゆっくりと民族衣装を着ている。

naran	<u>alyur</u>	ündüsüten-ü qobçasu-ban	<u>emüs=čü/?ged</u>	<u>bayi=n_a</u>
ナラン	ゆっくり民族衣装-REFL		着る-CVB	いる-PRES

以上の考察をまとめると次のようになる。前接動詞が主体変化を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」は通常、結果の持続を表す。一方、補助動詞「-CVB bayi-」は前接動詞が主体変化を表す動詞で、その中でも瞬間的な変化を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」と「-γad bayi-」は相互に対応し、結果の持続を表す。だが、変化の過程を持つ主体の変化を表す動詞の場合、補助動詞「～ている」と「-γad bayi-」は結果の持続を表すが、「-ju bayi-」は継続を表す。更に、前接動詞が再帰的な意味を含む主体変化を表す動詞の場合、補助動詞「-CVB bayi-」は結合型「-ju bayi-」と分離型「-γad bayi-」との両方の接続パターンが可能であり、共起する文要素によっては、「-ju bayi-」は動作の継続を表すが、「-γad bayi-」は不自然である。

2.3 経歴を表す場合

補助動詞「～ている」はある動きがかつてあったことが主体の状態に何等かの関係を持つこと、即ち「経歴」を表すことができる。だが、補助動詞「-CVB bayi-」においては結合型「-ju bayi-」と分離型「-γad bayi-」の両方の言い方とも不自然である。

(20) 彼は二年前日本に行っている。

??tere	qoyar jil-un emün_e	yapon-du	<u>oči=ju/γad</u>	<u>bayi=n_a</u>
彼	二年前	日本-DAT	いく-CVB	いる-PRES

(21) その先生と一度会っている。

??tere	bayši tai	nige uday_a	<u>ayulja=ju/γad</u>	<u>bayi=n_a</u>
その	先生と	一度	会う-CVB	いる-PRES

(22) 子供の頃、重い病気になっている。

??keüked-ün	üy_e-du	kündü	ebedčin-dü	<u>nerbegde=jü/ged</u>	<u>bayi=n_a</u>
子供-GEN	頃-DAT	重い	病気-DAT	患う-CVB	いる-PRES

以上の例文から、経歴を表す場合、補助動詞「～ている」と「-ju bayi-」、「-γad bayi-」は相互に対応しない。モンゴル語では、経歴を表すのに、(a)「-γsan/gsen+bayi-」、(b)「-ju/γad +önggerekü」の二種類が存在する。

(20 a) tere	qoyar jil-un emün_e	yapon-du	<u>oči=γsan</u>	<u>bayi=n_a</u>
彼	二年前	日本-DAT	行く-PRTC	いる-PRES

(彼は二年前に日本に行っていた。)

(20 b) tere	qoyar jil-un emün_e	yapon-du	<u>oči=ju/γad</u>	<u>önggere=gsen</u>
彼	二年前	日本-DAT	行く-CVB	過ぎる-PRTC

(彼は二年前に日本に行ったことがある。)

(21 a) tere	bayši tai	nige uday_a	<u>ayulja=γsan</u>	<u>bayi=n_a</u>
-------------	-----------	-------------	--------------------	-----------------

- その 先生と 一度 会う -PRTC いる -PRES
(その先生と一度会っていた。)
- (21 b) tere bayisi tai nige uday_a ayulja=jü/γad önggere=gsen
その 先生と 一度 会う -CVB 過ぎる -PRTC
(その先生と一度会ったことがある。)
- (22 a) keüked-ün üy_e-dü kündü ebedčin-dü nerbegde=gsen bayi=n_a
子供 -GEN 頃 -DAT 重い 病気 -DAT 患う -PRTC いる -PRES
(子供の頃重い病気になっていた。)
- (22 b) keüked-un üy_e-dü kündü ebedčin-dü nerbegde=jü/ged önggere=gsen
子供 -GEN 頃 -DAT 重い 病気 -DAT 患う -CVB 過ぎる -PRTC
(子供の頃重い病気になったことがある。)

例文 (20a) (21a) (22a) は「過去・完了」を表す動詞語尾「-γsan/gsen」と補助動詞「-CVB bayi-」が結合して経歴を表し、日本語の「～ていた」に相当する。そして、例文 (20b) (21b) (22 b) は「経つ、過ぎる」を表す動詞「önggerekü (過ぎる)」が前接動詞と結合型「-ju」、又は分離型「-γad」で結合し、「経歴」を表している。

以上の事例から、補助動詞「～ている」が経歴の意味を表す場合、補助動詞「-CVB bayi-」においては、結合型「-ju bayi-」と分離型「-γad bayi-」との接続パターンでは経歴を表せない。モンゴル語においては、「-γsan/gsen+bayi-」、又は「-ju/γad+önggerekü」の形で表現するほうがより自然である。

だが、管見では「-γsan/gsen+bayi-」は主に書き言葉で多く使われるのに対し、「-ju/γad+önggerekü」は主に話し言葉で多く使われるようであるが、その詳細な分析は今後の研究に譲りたい。

2.4 反復を表す場合

補助動詞「～ている」が同じことが繰り返して行われる事を表す場合、前接する動詞の性質と動詞のタイプとは関係しない。

- (23) 子供が何回もテレビを壊している。

Keüked kedü uday_a telwis-i ebdele=jü/ged bayi=n_a
子供 何回 テレビ -ACC 壊す -CVB いる -PRES

- (24) この本は三回も読んでいる。

ene nom-i γurba uday_a ungsi=jü/γad bayi=n_a
この 本 -ACC 三回 読む -CVB いる -PRES

例文 (23) は前接動詞が主体動作・客体変化を表す動詞であり、例文 (24) は前接動詞が主体動作を表す動詞である。補助動詞「～ている」は「何回も、三回」等、繰り返しを表す副詞と共に、反復の意味を表している。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」も反復の意味を表し、補助動詞「～ている」と相互に対応している。

なお、モンゴル語では、補助動詞「-CVB bayi-」は副詞と共に起して反復の意味を表す他、前接動詞と補助動詞「-CVB bayi-」の間に助詞「la」が挿入し、反復の意味を表す場合もある。

(25) 弟がいつも本を読んでいる。

Degüü kejiyete nom ungsi=jü/γad la bayi=n_a
 弟 いつも 本 読む-CVB FP いる-PRES

(26) 彼は毎日遊んでいる。

tere edür-tü-ben nayad=ču/γad la bayi=n_a
 彼 毎日-DAT-REFL 遊ぶ-CVB FP いる-PRES

「結合型「-ju」+la+bayi-」と「分離型「-γad」+la+bayi-」は同じく動作・行為が繰り返して行われることを表している。ただ、前者の結合型と比べ、後者の分離型の方は話し手の不愉快な気持ちが含まれ、その反復に行われる動作・行為が周囲に迷惑をかけているため、その行為をやってほしくないというネガティブな意味を含む場合がある。

(27) eji-ben sana=γad la bayi=n_a
 母-REFL 恋しむ-CVB FP いる-PRES

(いつも母のことを恋しんでいる。)

(28) tere man-u-du ire=ged le bayi=n_a
 彼 私-GEN-DAT 来る-CVB FP いる-PRES

(彼はいつも我が家に来ている。)

例文 (27) (28) は同じく「分離型「-γad」+la+bayi-」であり、補助動詞「-CVB bayi-」は反復を表している。だが、例文 (27) には迷惑の意味が含まれていないのに対し、例文 (28) には、マイナスの意味が含まれ、反復に行われる行為が話し手にとって迷惑になっていることを表している。「分離型「-γad」+la+bayi-」において、どのような場合がマイナスの意味を含むのかについては今後の研究で詳しく考察していきたい。

2.5 単なる状態を表す場合

前接動詞が状態動詞の場合、補助動詞「～ている」は物事の状態を表す。本論では主に「スル・シテイル形状態動詞」(例文 (29)) と「シテイル形のみ形状態動詞」(例文 (30)) との二種類を扱うことにする。

(29) 彼は母親に依存している。

tere eji-ben tūsige=jü/?ged bayi=n_a
 彼 母-REFL 依存する-CVB いる-PRES

(30) 日本は太平洋に面している。

yapon nomuqan dalai tai niyurla=jü/?γad bayi=n_a

日本 太平洋と 面する - CVB いる - PRES

補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」が相互に対応し、「単なる状態」を表すことができる。ただし、補助動詞「-CVB bayi-」は結合型「-ju bayi-」の場合で自然であるのに対し、分離型「-γad bayi-」の場合は座りの悪い文になる^⑤。

3. まとめと今後の課題

本論では、補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」との意味・用法を対照し、その類似点と相違点を考察した。

補助動詞「～ている」と「-ju bayi-」は「動作の継続」、「結果の持続」、「単なる状態」、「反復」を表す面で共通点を持っているものの、「経歴」を表す面で異なっている。そして、補助動詞「～ている」と「-γad bayi-」は「結果の継続」、「反復」を表す面で共通しているものの、「動作の継続」、「単なる状態」、「経歴」を表す面で異なっている。

補助動詞「～ている」が基本的な意味を表す場合、補助動詞「-CVB bayi-」は前接する動詞のタイプ及び接続パターンによって異なる意味を表す。とりわけ、前接動詞が主体動作・客体変化、又は主体の意志的な動作を表す動詞及び過程を持つ主体変化動詞の場合、「-ju bayi-」は「動作の継続」を表す。しかし、前接動詞が主体の非意志的な動き、又は心理動詞の場合、「-ju bayi-」は「動作の継続」を表すが、「-γad bayi-」は表現できない。また、前接動詞が状態動詞の場合、「-ju bayi-」は「単なる状態」を表すが、「-γad bayi-」は不自然である。また、「反復」と「経歴」の派生的な意味を表す場合、「-ju bayi-」と「-γad bayi-」は共通点を持っている。

補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」との異同点を考察することによって、明らかになった点があれば、今後の課題として残された問題点も多々存在している。その一つは「経歴」を表す場合である。補助動詞「～ている」と「-ju bayi-」「-γad bayi-」が相互に対応できず、「-γsan/gsen+bayi-」、又は「-ju/γad+önggerekü」の形で表現される。この場合、動詞「önggerekü（過ぎる）」が文法化し、機能語になっているのか否かは考察出来なかった。また、「-γsan/gsen+bayi-」は「経歴」の意味以外にどのような文法的な意味を表すのかについても考察が及ばなかった。

それに、補助動詞「-CVB bayi-」は前接する動詞のタイプ及び接続パターンによって表現される意味が異なる。結合型「-ju bayi-」と分離型「-γad bayi-」は重なるところもあれば、異なる部分も存在していることが分かった。今回の対照研究ではその表現形式に重点を置いて考察したが、深層部分までは究明できておらず、異なる原因については十分な説明が出来ていない。また、動詞「いる」と「bayi-」が内容語から機能語へ文法化する過程も考察出来ていない。今後の研究では、以上に記述した課題について研究を行っていききたい。

注：

- ① 本稿におけるモンゴル語の表記は清格爾泰（1991）に従い、グリエンバック方式によってローマ字転写したものである。グロス及び例文の日本語訳は筆者によるものである。なお、母音調和による「u/ü」は動詞語幹と一緒に表記する。
- ② 内蒙古大学中国語言文学系蒙語教研室（編）（1964）においては、モンゴル語の補助動詞の接続パターンには結合型（ju/jü・cü/čü）、分離型（γad/ged）、同時型（n）の三種類があると記述されている。清格爾泰（1999：251-252）によると、結合型は一語としての働きをさせる。分離型は前項の動作を終わらせてから後項の動作を行うという意味を表し、動作が既に行

われた状態を表す。同時型は一つの動作が繰り返して行われる、或いは瞬間的に行われる。本論では、結合型を「-ju」で、分離型を「-γad」で表記する。

- ③ 補助動詞「-CVB bayi-」が前接する動詞の性質、また接続パターン（結合型 (j/jü・ču/čü)、分離型 (γad/ged)、同時型 (n)）によって異なる意味を表す。その詳細な考察は巴徳瑪 (2012) を参照されたい。
- ④ ただし、主体が複数の場合では、主体の瞬間的な変化を表す動詞でも、補助動詞「～ている」は物事の変化の継続を表す。この場合、補助動詞「-CVB bayi-」においては、結合型「-ju bayi-」が自然であり、変化の継続を表すことができる。例文 (1) は風で多くの木の枝が次々と折れていくことを表し、例文 (2) は何かの原因で多くの犬が絶えず死んでいることを表している。

(1) salkin-du modu-n salay_a quγura=ju bayi=n_a
 風-DAT 木-GEN 枝 折れる-CVB いる-PRES
 (風で木の枝が折れている。)

(2) tende olan noqai ükü=jü bayi=n_a
 そこ 多い 犬 死ぬ-CVB いる-PRES
 (そこに多くの犬が死んでいる。)

また、「濡れる」は主体の瞬間的な変化を表す動詞であり、補助動詞「～ている」と分離型「-γad bayi-」は相互に対応し、結果の持続を表す。ただし、「服が水に濡れつつある」状態、つまり変化の進展を表す場合、補助動詞「-CVB bayi-」は結合型「-ju bayi-」の方が自然である。

(3) debel usun-du aγajim-iyar noru=ju bayi=n_a
 服 水-DAT 徐々に 濡れる-CVB いる-PRES
 (服が水に徐々に濡れている／濡れつつある。)

- ⑤ ただし、日本語では、「いる」は存在を表す状態動詞であり、且つ「シテイル形」を持たない動詞である。そのため、「家にいる」という表現は不自然であり、非文になる。しかし、モンゴル語では、「bayiju/γad bayin_a」は自然である。この点で、補助動詞「～ている」と「-CVB bayi-」は異なっている。

(4) tere anggi-yin ger-tü-ben bayi=n_a
 彼 教室-DAT-REFL いる-PRES (彼は教室にいる。)

(5) tere anggi-yin ger-tü-ben bayi=ju bayi=n_a
 彼 教室-DAT-REFL いる-CVB いる-PRES
 (彼は(しばらく)教室にいる。)

(6) tere anggi-yin ger-tü-ben bayi=γad la bayi=n_a
 彼 教室-DAT-REFL いる-CVB FP いる-PRES
 (彼はいつも教室にいる。)

例文 (4) は無標形式であり、動詞「bayi-」は存在を表している。これに対し、例文 (5) (6) は有標形式であり、動詞「bayi-」の実質的な意味が希薄化している。例文 (4) は教室にいるか否かのただ存在を表しているのに対し、例文 (5) は「教室にいる状態が時間的にしばらく持続すること」を表している。例文 (4) に比べ、例文 (5) は時間的に長く教室にいることを表す。一方、例文 (6) において、「bayiyad la bayin_a」は反復を表し、いつも教室にいることを表している。

[凡例]

ABL (ablative). ACC (accusative). COM (comitative). DAT-LOC (dative-locative). INST (instructive) GEN (genitive). NOM (nominative). COND (conditional). CVB (converb). NEG (negative).

POSS (possessive particle). PRTC (participle). PAST (past tense). PRES (present tense) FUT (future). QP (question particle). FP (focus particle). PROP (propriative). SFP (sentence final particle). REQ (request). PROF (professional). VOL (volitional). SFP (sentence final particle) REFL (reflexive). 1, 2, 3 (person) IMP (imperative)

— : 語末分かち書き母音 - : 助詞境界、 = : 接辞境界

参考文献

奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『国語国文』8号 宮城教育大学
 国語国文学会 pp. 51-63.

(1978) 「アスペクトの研究をめぐって (上)」『教育国語』53号 むぎ書房 pp. 33-44.

(1978) 「アスペクトの研究をめぐって (下)」『教育国語』54号 むぎ書房 pp. 14-27.

小沢重男 (1963) 『モンゴロ語四週間』 大学書林.

(1987) 「モンゴル語のテンスとアスペクト」『学習院大学言語共同研究所紀要』10号 pp. 16

-21.

(1997)『蒙古語文語文法講義』大学書林.

金田一春彦 (1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」(金田一春彦編 (1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 所収 pp. 27-61).

工藤真由美 (1982)「シテイル形式の意味記述」『武蔵大学人文学会雑誌』13巻4号 武蔵大学人文学会 pp. 51-88.

(1987)「現代日本語のアスペクトについて」『教育国語』91号 むぎ書房 pp. 2-21.

(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.

塩谷茂樹・E プレブジャブ (2001)『初級モンゴル語』大学書林.

鈴木重幸 (1958)「日本語の動詞のとき(テンス)とすがた(アスペクト)—～シタと～シテイター」(金田一春彦編 (1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 所収 pp. 85-95).

仁田義雄 (1987)「テンス・アスペクトの文法」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究 8』(仁田義雄 (2009)『日本語の文法カテゴリをめぐって』第1巻 ひつじ書房 所収 pp. 241-292).

日本語記述文法研究会 (2009)『現代日本語文法2』くろしお出版.

(2007)『現代日本語文法3』くろしお出版.

橋本邦彦 (2005)「モンゴル語融合形副動詞接尾辞 -n の文法化」『一般言語学論叢』8号 pp. 1-19.

フフバートル・小沢重男 (1993)『モンゴル語基礎文法』インターブックス.

益岡隆志 (2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版.

益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水敏 (1997)『岩波講座 言語の科学5 文法』岩波書店.

松岡雄太 (2008)「モンゴル語のアスペクトに関する研究—満州語・朝鮮語との対照—」九州大学博士論文.

吉川武時 (1973)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『Linguistic Communication』Monush 9. (金田一春彦編 (1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp. 155-327所収).

(1975)「「～てみる」の意味とその実現する条件」『日本語学校論集』2号 東京外国語大外国語学部附属日本語学校 pp. 36-51.

白金剛・包満亮・孟根格日樂 (1997)『新編日蒙詞典』内蒙古文化出版社.

内蒙古大学中国語文学系蒙語教研室 (編) (1964) *Oduüy-e-yin mongγul kele* 内蒙古人民出版社出版.

内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所 (1996)『蒙漢辞典』内蒙古大学出版社.

清格爾泰 (1965) 'Mongγul kelen-ü tusalaqu üile üge-yin tuqai' 『内蒙古大学学术杂志』.

(1979) *Odu üy-e-yin mongγul kele-njüi* 内蒙古人民出版社出版.

(1986)『語文学術論文集』内蒙古大学蒙古語文研究所.

(1991)『蒙古語語法』内蒙古人民出版社.

(1999)『現代蒙古語』内蒙古人民出版社.

巴德瑪 (2012)「日本語とモンゴル語における補助動詞の対照研究」, 神戸大学博士論文

本論文は博士論文の一部を加筆訂正したものである。この論文は2016年度内蒙古自治区高等学校科学研究プロジェクト(NJSY 16006)を受けて実現した研究成果の一部である。

